

Report from the EDGE

ディスレクシア (Dyslexia) とは.....

知的に問題がなく、聴覚、視覚の知覚的機能は正常なのに、読み書きに関して特徴のあるつまずきや学習の困難を示す症状のことをいいます。

EDGE は.....

ディスレクシアの正しい認識の普及と教育的な支援を目的とした特定非営利活動法人 (NPO) として、2001年10月に認証・設立され、活動しています。

パーソナルストーリー

空間認知を活かして建築家を目指す

ディスレクシアと判明する

1999年に日本の中学を卒業後、藤堂高直は英国へ留学した。高等学校へ進学準備をする学校へ在学中に教師たちが彼の話す言語能力に比べて読み書きのスキルが大変おとっていることに気が付いた。

何のためか分からないまま検査を受けた彼に結果として告げられたのはディスレクシアであるということであった。知的な発達はあるのだが、読み書きの習得能力に影響を与えているといわれている。

小学校のころから言語に関わる困難を経験してきた25歳の建築家はディスレクシアであると告げられたことに関して「驚きもあったけれど、

それより自分の大変さの理由が分かり、かえってホッとした」という。

漢字を覚えるのも何百回書いても一本線が足りなかったり、似ているけれど違う形だったり、偏と旁があべこべだったりした。今でも「ら」「ち」「さ」「う」などは書くときも読むときも間違えるのだが、長文読解は得意である。村上春樹の小説などは好んで読んでいます。小さいころから母親は漢字を要素に分解して絵で意味の理解をするように教えていたので、漢字をひろって意味はとれるのだ。

それに対して9年間留学していても会話や仕事では不自由はしないものの新聞などを読むのは苦痛である。

日本の学校の教師は違いを伸ばし



てくれるどころか、普通になるよう指導したため、苦痛だったという。書けない事を忘れていたためと決め付けられ、書けない為に正解を口頭で答えても点数に数えてくれなかったりした。

しかし、読み書き以外では興味のある社会科、図工などで非凡なものを見せていた。

読書は脳を
どのように変えるのか？



プ
ル
ー
ス
ト
と
イ
カ

メアリーアン・ウルフ (タフツ大学 読字・言語研究センター所長) 著

プルーストとイカ 読書は脳をどのように変えるのか？

「非常に面白い」立花隆 (週刊文春、文藝春秋)

「多くの人に読んでもらいたい書物」養老孟司 (毎日新聞)

竹内薫 (日本経済新聞)、粉川哲夫 (東京新聞・中日新聞) など各氏が絶賛!

【主な内容】

- ・脳はどのように読み方を学び、また「熟達した読み手の脳」になるのか？
- ・ディスレクシアの4つの原因と早期発見の方法・最新教育とは？
- ・ディスレクシアと遺伝子の関係とは？
- ・日本語脳・英語脳・中国語脳の違いとは？ ほか

日本LD学会大会 (07年) の招聘講演者による

「読字 / ディスレクシア」の素晴らしい研究成果です。

読字に関する
最良図書として
マーゴット・
マレク賞受賞!

インターシフト 発行
合同出版 発売 2520円
www.intershift.jp

英国でのサポート

英国でディスレクシアであると判明するとすぐにいろいろなサポートが入った。まずは、手元を見ないでキーボードを体の感覚で打つタッチタイピングの無料講座への参加を勧められた。またスタディースキルの時間ではマインドマッピングや黄色い透明シートを通して文字を読むなどもその中に入っていた。漫画、ビデオやテープなど本以外の媒体を通して知識を吸収する方法も同時に試していた。試験時間の延長など数々の配慮もさ

れるようになった。

検査では読み書きの困難さだけではなく、彼が本来持っている強みに関しても浮き彫りにした。空間認知が大変優れているのである。

こうしてAレベル試験（大学進学のための国家試験）を無事に通り2002年にAAに入学した。通常だとファウンデーションコースを取るのだが、免除され、途中1年間のイヤーアウト（企業での研修や旅行などをして研鑽を積む時期）を含め2008年夏にロンドンのAA

(Architectural Association School of Architecture) のディプロマコースを終了し、RIBAパート2を取得した。

●藤堂高直さんの話はインターネットラジオで聴くことができます。

http://blog.livedoor.jp/npo_edge/archives/cat_50033715.html

http://www.voiceblog.jp/dx_station/

デイリーヨミウリ 2008年12月11日記事を参考にしています。文責：藤堂栄子

平成20年事業報告

栄えある「博報賞受賞」

博報賞は、これからの時代を担う子どもたち（小・中学生）の教育に献身、努力されている学校、実践団体および先生や教育実践者の、すぐれた業績や教育に対する貢献を顕彰し、教育活動を助成するために1970年に設けられました。

エッジは特別支援教育部門で「NPOと自治体の協働による特別

支援教育の推進」をしたということで受賞しました。

<http://www.hakuhodo.co.jp/foundation/prize/newest.html>

また、受賞した団体の中から選

ばれ第6回「博報教育フォーラム」に参加します。

今回のテーマは、「『ブレイクスルー』で成長する」です。

- 日時：2009年2月28日（土）13：00～17：00
 - 会場：日本工業倶楽部（東京都千代田区丸の内1-4-6）
 - 主催：財団法人 博報児童教育振興会
 - 後援：文部科学省
- <http://www.hakuhodo.co.jp/foundation/forum/index.html>

従来の活動に加え本年度は下記の活動を行いました。

☆メディア

- NHK スペシャル
「病の起源 - 読字障害」
- デイリーヨミウリ

建築家がディスレクシアの仲間の支援をする

☆シンポジウム

- 「港区と区別支援教育 学習支援員の仕組みと効果」
文部科学省委嘱事業中間報告発表会
- 「ほんの小さなきっかけで、子どもたちに大きな未来を」(学研)

☆特別支援教育

- 港区との協働
- NPOと自治体の協働による特別支援教育の推進 博報賞受賞

☆支援：相談業務

- DX会（成人ディスレクシアの人の会）6回
- DX会キッズ&ティーンズクラブ（小中学生の英国数+SS他）週3×10ヶ月

☆出版・販売物

- 学習支援員養成講座テキストブック - 能力を活かし伸ばす支援 3巻

- 個別支援室と学習支援員の仕組みと効果 中間報告書 DVD

- マッケンジー・ソープ氏カレンダー 2000部

☆ネットワーク JDDnet

- 発達障害者支援法、障害者自立支援法改正に向けたニーズ調査へ協力

☆民間・他団体との協働

- 学研、IBM、日本リハビリテーション協会等と協働でシンポジウムなど共催

NPO 法人エッジの販売テキスト

ホームページでテキストの一部を e-Book でご覧になれます。

『能力を引き出し伸ばす支援』 Vol.1~3

<http://www.npo-edge.jp/>

Vol.1 「理解を深める」

- 1-1 港区の特別支援教育
- 1-2 特別支援教育とは
- 1-3 発達障害を理解する
- 1-4 気づきの目を持つために
- 1-5 LD 疑似体験
- 1-6 当事者(保護者、本人)の声



価格：1660 円 + 税

Vol.2 「特別支援教育の現状」

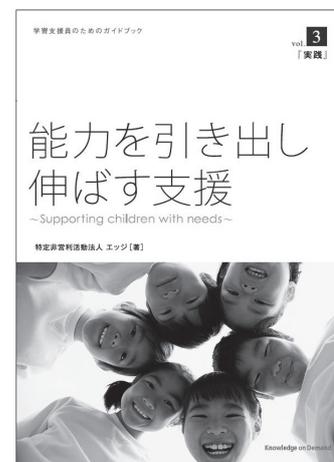
- 2-1 カウンセリング
- 2-2 ソーシャルスキルトレーニング
- 2-3 医療面からの配慮
- 2-4 教育の現場～就学前～
- 2-5 教育の現場～小中学～
- 2-6 教育の現場～都立高校～
- 2-7 高等教育と就労



価格：1770 円 + 税

Vol.3 「実践」

- 3-1 LSA の役割、出来ること
- 3-2 支援ツールの紹介
- 3-3 実践的指導法
国語・算数・英語・その他
- 3-4 その他の支援のヒント



価格：1550 円 + 税

「報告書」

- 文部科学省委託事業
- 「障害のある子どもへの対応における NPO 等を活用した実践研究事業 中間報告」～個別支援室と学習支援員の仕組みと効果～
700 円(税込)

「発表会 DVD」

- アンケート・インタビュー結果をまとめた支援効果に関する調査報告
- 支援の実際と実例研究
- 支援体制をより効果的に変えていくための考察と展望
2,500 円(税込)

「報告書と発表会 DVD セット」

3,000 円(税込、セット割引)

ご注文は
NPO EDGE 事務局

FAX : 03-6240-0671

Mail : edgewebinfo@npo-edge.jp

愛をはこぶ人キャンペーンから

2010 年版オリジナルカレンダー発売決定

大好評のキャンペーンオリジナルのソープ氏の素敵な作品を集めた 2009 年版カレンダーに引き続き、2010 年度版(予価 1400 円、送料 600 円)も発売されることが決

定いたしました。新しいポストカード 12 枚セット(1000 円)も好評販売中です! お申し込みは
Mail: mail@aiwohakobu.jp
FAX 03-6240-0671



「市川拓司さんと対談」して

東京学芸大学教授 愛をはこぶ人キャンペーン実行委員長 上野一彦

作家市川拓司さんとの対談が実現しました。市川拓司さんは、インターネット上に作品を公表するインターネット作家、オンライン作家としてユニークな作家活動を展開し、『いま、会いにゆきます』『そのときは彼によろしく』『世界中が雨だったら』など、その作品はTVや映画でも採り上げられていて、多くのファンのいるベストセラー作家です。対談のきっかけは市川さんのエッセイ『きみはぼくの』（アルファポリス）と、私こと、カズ先生のエッセイ『LD 教授（パパ）の贈り物』（講談社）との出会いからです。

ふたりのエッセイを仲立ちとしたやりとりの中で、市川さん自身が、いわゆる知的な遅れのない発達障がいを持っていることをカミングアウトされ、意気投合しました。私もエッセイのなかで、自らの中にある発達障害について語っているからです。

対談は、それぞれの育ち、母の存在、LD・ADHD 丸出しの少年時

代、自立、個性についての考え、ひいては人間観や女性観などあつという間の2時間でした。市川さんの率直で、飾らない語り口は、クールさの中にも人への気づかい・やさしさが、彼の小説同様、あふれていました。

無意識の中での「発達障がい」としての立ち位置、氏の「苔（こけ）」を育てる趣味の話、出版業界から始まって、あらゆる領域で活躍している仲間の話、なかでも、映像的な発想からそれを文字化していく氏の作家活動話は、アガサクリスティやジョンアービングにも通じる創作秘話であり、実に興味深いものでした。

対談の後半では、先月（2008年10月）、NHK スペシャル「読字障害」にも登場した若き建築家、藤堂高直さんとイラストレーターの村松洋一さんにも登場して貰い、4人で「発達障がい」の可能性と未来像について、大いに語り合いました。きっと、多くの人々に、カズ先生のLDのキャッ

チフレーズ「愛(Love)と夢(Dream)」を運んでくれたと思います。

最後に、この対談企画を気持ちよくひきうけ、打ち合わせ本番と丸一日、つき合ってくださいました市川拓司さん、そして彼の最大の理解者であり、朝からずっと参加された市川さんの素適な奥様にも厚く感謝いたします。

（上野一彦記）

上野一彦 (Kazuhiko UENO)

国立大学法人東京学芸大学 心理学講座
<http://edublog.jp/kaz1229>
 tel & fax : 042-329-7360
 e-mail : ueno@u-gakugei.ac.jp



上野先生



2人対談



4人座談

NHKスペシャル 「病の起源」(読字障害)の取材を受けて

藤堂高直

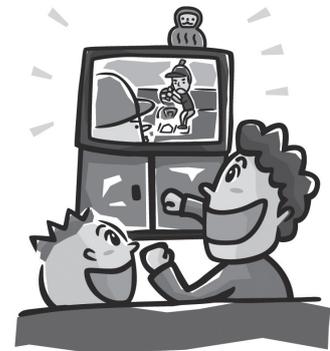
多少誇張された部分がありましたが、全体的に番組の撮影を始める最初期からお互いに話し合っ2年間かけて作成された番組だけあり、僕の伝えたいディスレクシア像が番組を通じて正しく伝わったと思います。

取材を受けたのは僕が学生から社会人になる人生の過渡期でした。そういう意味で僕のこれから建築家として、またディスレクシアを有した日本人としての考えを纏める良い機会に成りました。

大阪医科大学で能力検査を

行った時は改めて自分の読み書きと空間認知能力の落差に驚かされました。僕が新しいデザインを作成している間の取材は文字通り密着取材で精神的にも体力的にも疲れましたがお蔭で良い映像に出来上がっています。中でも閃きの瞬間を撮影したいと言われた時はとても辛かったです。閃きの瞬間は緊張した状態では中々来ないものです。建築家としてこれから新しくしていく楽しい世界を新しい技術と共にデザインして行きたいという意味も示せました。

僕はとても幸運な環境に育まれてここまで来る事が出来ました。この番組を通じてより多くの人がディスレクシアの正しく正しい理解を持ち日本でも僕の経験した環境が広がれば良いと思います。



日本リハビリテーションイベントについて

有田由子

昨年11月1日(土)、NPO法人EDGEのご協力のもと、イベント「ディスレクシアの子どもたちへの読みの支援-DAISYを使ってみよう」を開催し、約250名の参加がありました。講演会ではディスレクシアの方やご家族から体験や工夫についてお話いただき、参加者からは「感銘を受けた」「胸に迫るものがあった」との感

想が得られるとともに、ディスレクシアへの理解を深めてもらうことができました。DAISY体験コーナーではDAISYを実際に利用したいとの感想を多く得ました。昨年9月に教科書バリアフリー法が施行され、本年度からは普通の印刷版教科書では学習が困難な児童・生徒のために教科書の電子データ提供が義務付けられ

ます。保護者からはDAISY版教科書を提供してほしいとの要望が多く出されました。平等な教育を受ける権利を享受できるような環境に向けて、教科書についても行政側の施策の充実がますます期待されるところです。このイベントの報告は当協会ホームページに掲載しています。

<http://www.dinf.ne.jp/doc/japanese/access/daisy/event20081101/index.html>

エッジでは「キミはキミのままがいい」「DXってなあに」港区で採用されている光村図書館の国語の文章の部分をデジタイ化したものを扱っています。

アクセシビリティフォーラム 2008を開催して

IBM 長妻 令子

2008年11月14日(金)に「教育におけるアクセシビリティ」をテーマにしたフォーラムを開催いたしました。当日は開場の9時30分から沢山の方にご来場いただき、この分野への関心の高さを実感しました。午前中の基調講演に続き、午後は、「ディスレクシアについて」と「聴覚障害学生への支援の取り組み」に関して講演をいただきました。

EDGEの藤堂栄子氏の講演で

は、「ディスレクシアが何か初めてわかりました」というコメントが多くあり、啓発に一役買ったのではと思っております。また、村松洋一氏、柴田章弘氏、榎本達彦氏の講演は、豊富な実例・具体例を用いて、わかりやすくまた興味深く、大変面白かったと好評でした。私自身も講演を聴いたり参加者の方と話すことによって新たな知見を得ることが出来、大変有意義な一日となりました。

まだこれから取り組むべき課題が多々残っております。特に学習障害に関しては、取り組み始めたばかりという現状を認識しており、今後ますます活発に活動して行きたいと思いを新たにいたしました。



今年のフォーラムの開催報告は下記にございます。是非参考になさってください。
<http://www-06.ibm.com/jp/accessibility/events/act2008/report.html#main>

NPO EDGE・愛をはこぶ人キャンペーンシンポジウム

—ほんの小さなきっかけで、子どもたちに大きな未来を—

木村 綾子

シンポジウムに参加して

シンポジウムは、英国 Durham 州の上級特別教育心理士であるマドレーヌ・ポートウッド博士のスポンサー・レクチャーから始まり、続いて、全国に先駆け「学習支援員制度」を地域の教育関連 NPO との協働によって積極的に導入している港区、品川区の取り組みをご紹介しますと共に、これまでの通常学級内の発達障がい児への支援に先駆的・指導的な立場で関わってきた方たちから、現在の問題点、今後の課題につい

て他の地域へのメッセージとしてお話をいただきました。

そして、世界的な画家であるマッケンジーソープ画伯の講演や、作家の市川拓司氏と LD 教育のパイオニアでもあり、「愛をはこぶ人キャンペーン」の実行委員長でもある、上野一彦学芸大学教授との対談を実現し、後半には、建築家の藤堂高直氏、イラストレーターの村松洋一氏が加わって、当事者の立場から、若者たちの今後の夢などを語り合

いました。

みなさん、様々な立場の方々ではありますが、共通して言えることは、一人でも多く子ども達が、笑顔でいられる未来を考えていることではないかと思えます。

今後も、子ども達は勿論のこと、大人の方々で困り感を持っているの方々にも、このような働きかけがきっかけとなり、たくさんの方々の大きな未来をつくることが出来たらと考えております。

広島LD学会報告

広島大学教授 日本LD学会広島大会会長 落合 俊郎

第17回大会は、2008年11月22日から24日まで、広島大学東広島キャンパスで行われました。

参加者が1869人で、運営に参加した学生が65人、それにソープさんのワークショップに参加した子どもたちを含めると約1950人の参加でした。地方で開催された学会としては大規模なものでした。今回の大会には、少なくとも3つの意義がありました。第一は、ディスレクシアというLDの特徴的な



絵画展

困難があるソープさんの絵の展示と子どもたちが彼のワークショップに参加し、単なる「啓発」に終わらず「実感・感動」できたことです。第二は、特別支援教育の理念として掲げられている「共生社会」の意味についてです。学会が始まる前後から、世界的な金

融危機による不況の嵐が吹き荒れています。実は、共生社会の発端は1970年代後半に起きた英国の財政破綻がきっかけという理論の紹介です。ですから財政不安で改革を止めるのではなく、むしろ発想の転換を生む機会にもできるということです。第三は、障がい者の権利条約が発効されました。日本にも多かれ少なかれ影響が来る



ソープさんと落合大会会長

のは明らかです。教育の分野で大きな影響を受けるのはインクルージョンという概念です。3人の外国人講師から、インクルージョンの現実について報告をいただきました。ある意味ではロマンを砕いてしまったかもしれません。17回大会はあらゆる意味でエビデンスに基づいた厳しい大会だったと思います。

最近の活動紹介

2008年		1月25日	所沢市で講演会(40人)
10月18日	FU・マインドマップ(25人)	1月28日	JICE(20人)
11月1日	DAISYディスレクシアイベント(200人)	2月7日	FU・PC講座(6人)
11月13～15日	博報賞受賞セレモニー	2月8日	第22回DX会(18人)
11月15～24日	ソープ氏絵画展(ホテルオークラ)	2月11日	DAISY発表会(150人)
11月14日	IBMフォーラム(200人)	2月16日	特別支援教育推進ネットワーク(80人)
11月16日	学研ワークショップ・シンポジウム(200人)	2月21日	EDGE総会
11月19日	学研子ども園除幕式、開園式(30人)		
11月22～24日	LD学会(広島):(2000人)		
11月25日	23区職員への講演(200人)	2月26日	福島大学:特別支援教育
12月2日	ヒルズアカデミートーク(50人)	2月28日	博報賞教育フォーラム
12月13～14日	JDDネット第4回年次大会(目白大学):(800人)	3月1日	大田区シンポジウム
12月21日	第21回DX会(20人)	3月13日	港区保健所講演
12月25日	国土交通省バリアフリー法WG(20人)	3月18日	LD研修会(板橋)
12月26日	神奈川ネットワーク連合(10人)	3月26日	FU・国語と算数の支援
2009年		3月28日	リヴォルヴ教育公開講座(つくば)
1月16日	パナソニック(LD擬似体験):(30人)	3月30日	リヴォルヴ教育公開講座(浜松町)
1月19日	赤十字子どもの家(12人)	4月2～8日	発達障害啓発週間
1月24日	FU・個別支援計画作成(30人)	4月4日	落語の集い(三遊亭楽麻呂)
		4月6日	キャンペーンイベント

第21回DX会報告

柴田章弘

12月21日(日)、第21回DX会は20人(男14名、女6名)の出席で、地域活動室で行われました。今回の題は「今年あった楽しかったこと、印象に残ったことを文字、文章、絵などで表現する」でした。初めは「出来ない」とすねていた参加者もいましたが、周囲が絵を描いたり、文字を書く姿に感化され、自然にクレヨンを使って、なにかをしようと変わっていく姿には驚かされました。特に、初

参加された三組の親子、「父親と息子さん」二組、「母親と息子さん」一組は最も充実していました。お父さん、お母さんは、ご息子以上に熱中して、血相を変え必死に取り組んでいました。作品が完成した後、一人一人、コメントをし、質問を受けつけました。それぞれの個性に合わせて、さまざまな色で表現してあるので、見るほうも楽しくなりました。大人でも童心になれば、「お絵かき」は楽しいもの

です。「質問を受け、答えるたび」に自分の存在が認められて、満足感を得ます。発表後、拍手を受ける発表者の目が生き生きとする表情は本当にすがすがしく感じられました。最後に自分の作品をレンズに向けて、記念撮影をしました。どの顔を見ても、みんな楽しそうでした。「だれかになにか支援してもらおう」ではなく「自分で、自分の生きる方向を見つける」。この感動がDX会の目指す目標です。

愛をはこぶ人キャンペーン

愛をはこぶ人キャンペーンは昨年、五周年を迎えることが出来ました。昨秋は学研本社ビルのホールをお借りして、「ほんの小さなきっかけで、子どもたちに大きな未来を」と題するシンポジウムを開催いたしました。作家の市川拓司氏を迎えて、実行委員長の上野先生との対談など大盛況でした。また、マッケンジー・ソープ氏も二度来日され、絵画展と子どもたちとのワークショップも開かれました。日本LD学会第17回広島大会、日本IBM、日本リハビリテーション協会と協働でディスレクシア啓発活動を行いました。多くの皆様の活動と協力の結晶だと思います。ありがとうございました。

愛をはこぶ人キャンペーン2009は、1月23日開催、恒例のキックオフの会でスタートを切りました。今年は4月上旬に発達障害啓発



週間が決まり、エッジでは啓発イベントを開催予定です。夏にはソープ氏の来日も予定され、秋の10月10日～12日には東京学芸大学で日本LD学会の大会が開かれます。この時期に昨年同様の各種のイベントを開催の予定です。

愛をはこぶ人キャンペーンは6年目の新たなスタートを切りました。今年はこの5年間の成果を大切に継承し、子どもたちの大きな未来のために、少しでも多くの「きっかけ」を提供できるよう、心を込めて活動をしていきます。また、昨年好



評でした「カレンダー」も2010年版も作られることが決まりました。

本年もみなさまのご支援ご協力をお願いいたします。

文責：藪 巧一

Report from the EDGE - 第19号 -

2009年2月21日発行

発行者 NPO法人EDGE

発行責任者 藤堂栄子

東京都港区浜松町1-20-2 村瀬ビル3F

Tel. 03-6240-0670・0672

Fax.03-6240-0671

編集 NPO法人EDGE 事務局 柴田章弘

印刷 株式会社 信英堂

<http://www.npo-edge.jp>

http://blog.livedoor.jp/npo_edge/

E-mail: edgewebinfo@npo-edge.jp